

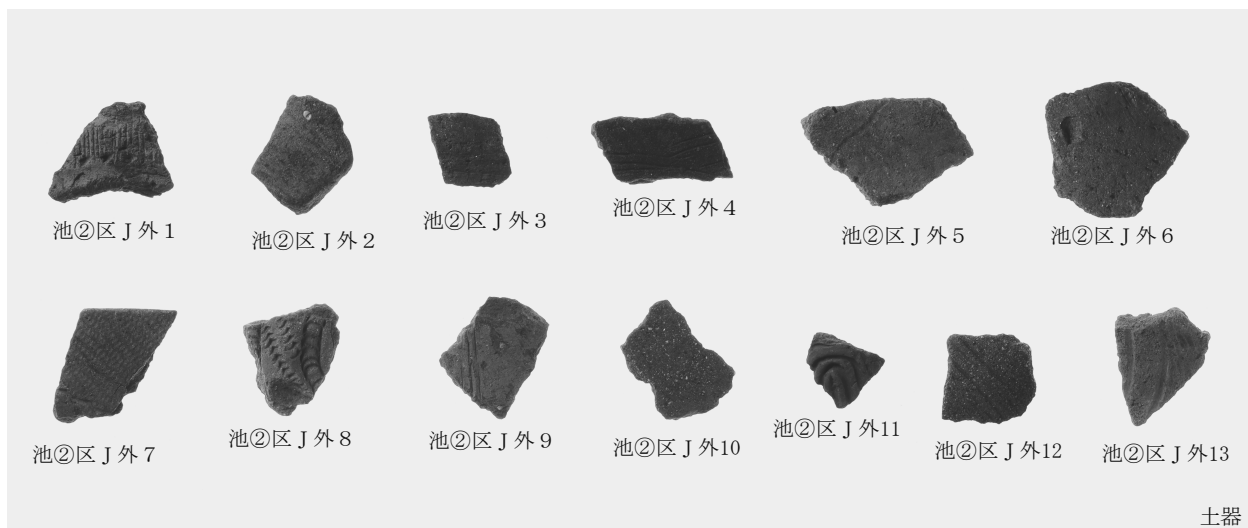
1 栗窪・林窪遺跡 8・9・調整池②区 中世遺構外出土遺物(7)



2 栗窪・林窪遺跡 8・9・調整池②区 奈良・平安時代遺構外出土遺物



1 栗窪・林窪遺跡 8・9・調整池②区 弥生時代後期～古墳時代前期、奈良・平安時代遺構外出土遺物



2 栗窪・林窪遺跡 8・9・調整池②区 縄文時代遺構外出土遺物

報 告 書 抄 録

ふりがな	ひがしとみおかふとくぼいせき　ひがしとみおかなかじまいせき　あわくぼはやしくぼいせき							
書名	東富岡・太窪遺跡		東富岡・中島遺跡		栗窪・林窪遺跡			
副　書　名	新東名高速道路（伊勢原市栗窪地区）建設事業に伴う発掘調査							
シリーズ名	かながわ考古学財団調査報告							
シリーズ番号	345							
編著者名	木村吉行・川嶋実佳子・宮坂淳一・井関文明・出縄康行							
編集機関	公益財団法人かながわ考古学財団							
所在地	〒232-0033　神奈川県横浜市南区中村町3-191-1　TEL 045-252-8689							
発行年月日	2025年3月15日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所　在　地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積 ㎡	調査原因
		市町村	遺跡番号					
ひがしとみおか 東富岡・ ふとくぼいせき 太窪遺跡	か　な　が　わ　け　ん　い　せ　は　ら　し 神奈川県伊勢原市 ひがしとみおか　ち　さき 東　富岡地先	14214	71	35° 41′ 24″	139° 31′ 42″	20101001～ 20111215、 20110616～ 20110831、 20160501～ 20160615、 20171201～ 20180515	2,644㎡	どうろ 道路
ひがしとみおか 東富岡・ なかじまい　せき 中島遺跡	か　な　が　わ　け　ん　い　せ　は　ら　し 神奈川県伊勢原市 ひがしとみおか　ち　さき 東　富岡地先	14214	71	35° 41′ 13″	139° 31′ 37″	20101216～ 20110331、 20120101～ 20120131、 20130601～ 20130831	908㎡	どうろ 道路
あわくぼ 栗窪・ はやしくぼい　せき 林　窪遺跡	か　な　が　わ　け　ん　い　せ　は　ら　し 神奈川県伊勢原市 あわくぼ　ち　さき 栗窪地先	14214	71	35° 41′ 10″	139° 31′ 47″	20120601～ 20120930、 20130101～ 20130331、 20130915～ 20140615、 20191001～ 20191031	3,913㎡	どうろ 道路
所収遺跡	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物		特記事項	
東富岡・ 太窪遺跡	集落	近世	段切り3、溝状遺構34、硬化面2、畝状遺構3、土坑24、ピット25、流路1		磁器、陶器、土器、金属製品、銭貨、石製品		中世から続く1区流路発見17～19世紀の耕作地	
		中世	溝状遺構1、畝状遺構2、土坑18、ピット32、流路1、杭列6		磁器、陶器、土器、金属製品、銭貨、木製品		1区流路と杭列の発見　13～16世紀の耕作地	
		奈良・平安時代	竪穴住居址1、掘立柱建物址1、溝状遺構2、畝状遺構8、硬化面1、土坑35、焼土址1、ピット96		土師器、須恵器、灰釉陶器、金属製品			
		弥生時代後期～古墳時代前期	土坑1、遺物集中1		土器			
		縄文時代	土坑5		土器			
		旧石器時代	遺物集中		石器、礫、炭化物		B2層中心とする層からの遺物集中の確認	

東富岡・中島遺跡	集 落	近世	段切り 2、溝状遺構 3、畝状遺構 2、土坑 5、ピット 7	磁器、陶器、土器、金属製品、銭貨、石製品	
		中世	土坑 5、ピット 31	磁器、陶器、土器、金属製品、銭貨、木製品	
		奈良・平安時代	溝状遺構 2、土坑 8、ピット 20	土師器、須恵器、灰釉陶器	
		弥生時代後期～古墳時代前期		土器	
		縄文時代	土坑 3、ピット 12	土器、石器	植物加工、石器製作場に関係する場所の可能性 土器は断続的に早期から後期
		旧石器時代	遺物集中	石器、礫、炭化物	L1H層上部より石器 1 点出土
栗窪・林窪遺跡	集 落	近世	掘立柱建物址 1、堅穴状遺構 3、溝状遺構 39、畝状遺構 2、段切り 2、井戸 3、土坑 120、ピット 568、焼土址 3、硬化面 4、杭列 2	磁器、陶器、土器、金属製品、銭貨、石製品	近世後半の耕作址や地割りの土地利用
		中世	段切り 2、堅穴状遺構 41、溝状遺構 27、畝状遺構 1、井戸址 9、硬化面 5、地下式坑 5、土坑 151、集石 1、ピット 2,067、焼土址 4	磁器、陶器、土器、金属製品、銭貨、木製品	荷駄鞍・連破下駄・田下駄・木地皿などの木製品が出土
		奈良・平安時代	土坑 5、ピット 5、遺物集中	土師器、須恵器、灰釉陶器	
		古墳時代		土器	
		弥生時代		土器	
		旧石器時代		石器	
要 約	<p>東富岡・太窪遺跡は富岡丘陵から字林台へ続く台地の北側縁辺、北東に位置する。近世から中世にかけて東西に流れる流路が存在しており、近世には流路の東側において畑作が営まれていたことが明らかとなった。中世の流路に護岸のためと思われる杭列が打ち込まれていたことから、付近に何らかの遺構が存在している可能性もある。奈良・平安時代の畝状遺構や土坑、近世の段切りや土坑が発見され、長期にわたって農地として利用されていたことが判明した。また、古墳時代以前は中央部が谷地形を呈していたことが明らかとなり、土坑が 1 基確認された。縄文時代は土坑が発見され、早期後半から後期中葉の土器が出土している。植物加工、石器製作場に関係する場所の可能性が考えられる。旧石器時代はB2層中心とする層からの遺物集中が確認された。</p> <p>東富岡・中島遺跡は富岡丘陵の南東に立地する。近世には段切りがなされ平場で畑作が営まれていたことが判明した。中世頃は南東に傾斜する地形を呈しており、この地は利用されていなかったと思われる。古代には区画溝が掘られ、その内側で畑作が営まれていた。縄文時代は土坑とピットが確認され、断続的に早期から後期にかけての土器が出土している。植物加工、石器製作場に関係する場所の可能性が考えられる。旧石器時代はL1H層上部より石器 1 点出土した。</p> <p>栗窪・林窪遺跡は富岡丘陵から字林台へ続く台地の南側に広がる谷戸から裾部に位置している。近世の遺構は溝状遺構が主体であり、中世は谷戸を埋めた部分から 15 世紀代の遺物を含む堅穴状遺構や土坑、井戸といった耕作に関連する遺構が検出されており、屋敷が営まれていたことが判明した。土坑からは荷駄鞍・下駄・皿などの木製品が廃棄された状態で出土している。中世の生活を考える上で貴重な資料を得ることが出来た。奈良・平安時代の遺構は堅穴状居跡・畝状遺構などが発見された。畝状遺構は遺物集中箇所の下から見つかっていることから、この地が一時的ではなく、ある程度の期間にわたって利用されていたことがわかった。縄文時代は早期後半から後期前葉に亘る土器が出土している。</p>				

本報告の発掘調査・出土品等整理・報告書作成に係る関係者名簿

事業年度	平成22～26年度、平成28～令和6年度
理事長	伊藤啓三（平成22～24年5月）、村山正和（平成24～26、28・29年度）、近藤晶一（平成30年～令和3年度）、中島栄一（令和4～6年度）
事務局長	丸山一郎（平成22年度）、中田英（平成23～26年度）、武藤浩二（平成28～令和元年度）、中島栄一（令和2・3年度）、柏木善治（令和4～6年度）
事務局次長	柏木善治（令和3年度）、栗原伸好（令和4～6年度）
総務部長	大野満（平成22～24年9月）、中田英（平成10月兼務）、熊谷淳（平成24年11月～26年度、平成28年度）、西海昌樹（平成29～令和2年度）、柏木善治（令和3年度兼務）、栗原伸好（令和4～6年度兼務）
総務企画部長	栗原伸好（令和6年度兼務）
総務企画副部長	橋本美子（令和6年度）
総務課長	大野満（兼務 平成22～24年9月兼務）、熊谷淳（平成24年11月～26年度、平成28年度兼務）、橋本美子（平成29～令和5年度、令和6年度兼務）
調査研究部長	中田英（平成22・26年度兼務）、鈴木次郎（平成23～25年度）、柏木善治（平成28～令和2年度）、井辺一徳（令和3～5年度）、大塚健一（令和6年度）
調査研究副部長	鈴木次郎（平成22年度）
参事	井辺一徳（令和2年度）
企画調整課長	鈴木次郎（平成22～24年度兼務）、柏木善治（平成25～26年度）、栗原伸好（平成28～令和3年度）、大塚健一（令和4・5年度）、飯塚美保（令和6年度）
企画調整課員	柏木善治（平成22・23年度）、大塚健一（平成24～26年度）、山口正紀（平成30～令和5年度）、脇幸生（令和5・6年度）
事業担当課長	宮坂淳一（平成22～24年度）、植山英史（平成25～26、28～令和3年度）、井辺一徳（令和4・5年度）、大塚健一（令和6年度）
調査担当課員	例言に記載

本書は長期保存を考慮し、すべて中性紙を使用しています。（数値は4/6判連量）

紙質	表紙	レザック	260.0 kg
	見返し	上質帳簿用紙	110.0 kg
	序文・例言・目次・本文	上質書籍用紙	72.5 kg
	扉	上質紙	90.0 kg
	写真図版	高級両面アート紙	135.0 kg
印刷	写真図版以外は電算写植等によるオフセット印刷		
	刷色は黒色など		
	写真図版はダブルトーン印刷（黒＋グレー）		

文化財保護、教育普及、学術研究を目的とする場合は、著作権者の承諾なく、この報告書の一部を複製して利用できます。なお、利用にあたっては出典を明記してください。

この報告書に係る記録図面類（写真類を含む）は、神奈川県教育委員会で保管していますので、利用する場合は神奈川県教育委員会に連絡して、必要な手続きをとってください。

かながわ考古学財団調査報告 345

東富岡・太窪遺跡 東富岡・中島遺跡 栗窪・林窪遺跡

東名高速道路（伊勢原市栗窪地区）建設事業に伴う発掘調査

第3分冊

発行日 2025（令和7）年3月21日
発行 公益財団法人かながわ考古学財団
〒232-0033 神奈川県横浜市南区中村町3-191-1
TEL 045-252-8689 FAX 045-261-8162
e-mail : kaf@kaf.or.jp
印刷 野崎印刷紙器株式会社